

統合実践看護実習	4 年・前期	1 単位 45 時間	教授 片貝智恵 他
科目カテゴリー	看護の統合	科目ナンバリング	34111154

1. 授業のねらい・概要

学生が看護学の学習を統合し、さらに広い見地から看護学を発展的に学ぶために、複数の患者を受持ち、限定された時間の中で、必要な看護の優先順位アセスメントや援助を実施することを目的とする。

学生は、看護チーム内の連携や他職種との連携について理解する。

2. 到達目標

1. 複数の受け持ち患者における看護ケアの優先順位をアセスメントし、必要な行動計画を立案できる。(D-2)
2. 立案した行動計画を複数の受け持ち患者に対して実践できる。(D-2)
3. 患者および家族との人間関係の成立と維持に必要な方法を習得できる。(D-2)
4. 保健医療チームの一員であることを自覚し、学生としての責任をもって行動できる。(D-1)
5. 病棟以外の看護師や他職種の役割を述べるができる。(D-3)
6. 主体的にカンファレンスに参加できる。(D-2)
7. 複数受け持ちに関する資料を作成し、発表できる。(D-2)

3. 授業の進め方

実習病院において学生は複数の患者を受け持って実習を行う。

原則として、受け持ち患者は臨地実習指導者と教員の協議によって選定される。

教員と学生が話し合い、受け持つ患者を決定し、患者の同意を得られた後、看護過程を展開する。

展開した看護過程に沿って看護を実践・評価する。

アクティブ・ラーニング型科目（実習）である。

ICT は活用しない。

4. 授業計画（実習/実技）

1. 実習時間：1 週間
2. 実習施設：前橋赤十字病院，群馬県立心臓血管センター，伊勢崎市民病院，済生会前橋病院
3. 実習内容：健康障害をもつ急性期・周手術期の患者を複数受け持ち、看護過程に沿った優先度を考慮した看護の展開および看護技術を実践する。
4. その他：詳細は統合実践看護実習要項を参照のこと。
5. 担当教員：本吉美也子，片貝智恵，千木良悦子，石井みゆき，他

5. 成績評価の方法・基準

実習は 4/5 以上の出席が必要である。

実習全般（課題，実習への取り組み方，実習内容，実習記録）80%，知識評価筆記試験 20%で，総合的に評価する。

ただし，実習全般と知識評価筆記試験は，それぞれ 60%に達しないと単位認定できない。

成績評価は，「2. 学修の到達目標」に示した評価観点ごとに，ルーブリック評価を基に，5 段階評価で採点する。尚，ルーブリック評価に関する詳細は，オリエンテーション内で説明する。

知識評価筆記試験は，実習期間前または後に実施する。

知識評価筆記試験の出題範囲および出題方法等は、事前に口頭または掲示で提示する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：必要に応じて適宜指示するが、実習に関連する内容のものを、既購入済のテキストから各自選択し活用すること。

参考文献：必要に応じて適宜紹介する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

実習要項および授業計画をみて、関連するテキストや既習授業資料で学習して実習に臨むこと。

課題学修として、臨地実習1日あたり最低2時間の予習および復習を行うこと。

8. 受講上の留意事項

主体的、意欲的な実習態度が重要である。

実習中の私語や実習に関連しない行動は、実習全般として評価対象とする。

9. 課題に対するフィードバックの方法

指示した課題は教員が内容を確認して返却する。

課題の内容が不備であるものは再提出を求める。

実習全般に関することは、実習中に随時口頭で説明する。

知識評価試験終了後、口頭、掲示またはメールで説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における看護師としての実務経験を活かして、実習を行う。